東海道中膝栗毛七編

下

拾

へ13
3681
15

門へ13
號3681
巻15

道中膝栗毛七編 下

[illegible]

流ふるもの西ふ[illegible]おちて。宗[illegible]ふ。肖失[illegible]

[illegible]ばこ。[illegible]栗小揺と[illegible]ちとさりて。[illegible]の旅籠

屋の如くふるそうるふ。おこゑりさる。[illegible]

[illegible]おつきで。[illegible]まとりまる。[illegible]

おせハ[illegible]ハ。[illegible]ごまて。[illegible]

[illegible]。おもしろや。[illegible]。おこと。[illegible]

内ナさんろ。[illegible]。[illegible]

きょうきょくさとるくへ今晩へお客がいこ。おさとくるふござ
こへーゆきうりてへ
あとまはとさろい。お湯へ林太郎殿　あとの。ふ医さ
ぐらゐおきるもうさ私いる湯がさざりまさと。こ夜人
ゑくお出なされへおいらあいくうう。浦沢さんおめへいく
なくいつてきませへ。京の名で洗ふくごうせへふいろ
が来くちるしいふてぐせいとのうへ来くちゃあ
きまくゑへくう。よくせくうせうへ来ふまるこぐられさん
ざしまくうお出いるへどもうちゃあ来ごでござりやさと

ふいろ。ふくこてへ林子とおりちゃさんこさろいこりや
迫来のおくそでちやへ出来ちゃ来さのうく
ぞんじまくうござこて。来ごのおくこぐ。ふくごどゆる
されまさそのゆへイヤとれ出来沢ぐまりやさと来ご
くこてばうけて茶やくこのさこりやちくしてゆるいる
ものを。きくゆせへこちくぐ公安ゆりのごぐ出来沢京
の人で。今浦小世話をもうてぬやさと。ふへ京の紹え
のやうくこるくぐゑノ林子とうぐせてよにやさ。

京の所
あるさるる
諸公
入さる

そのうけいの狂歌がこうまとい書そで。人さま紙
を書て世ふも面白。極てこいふうらそ。アノ桃子
だうりよこと公のぐ(ぐ)ぐてこいふこてろいきで
ぐだうぐさこう。そこで又その息子が。後妻をよこし
て人がおちぐくこあるこ妻じいろはいいのしもうけ
極へこせよ。さんざまけ。ろちらが今交出岡地へ
くるこいうこうこさんこいのこ。こうけて人のぐ
あるこいあうて。まいぐんちんでもぐけてやろくいひ

中こう。きこちせへきこて極へ行倉切をひこうしアノ物
ぐ子をよこて。そこを狂人のかうへこけて行ろくいひ
こさこそこでこうちが。コリヤアきぐこいうが坊主生て
みる人ぐこう。もひてひふちんぎぐこいひまここ
男のいこへそんこうこぐだうりひて。京
へつこさこう。ぐふで坊さこひこう。坊主でその坊さこふ
持米斗もこせて。物るこいうきよふ。おやぢの所へ
ぐつてこせへこいひまこう。ソリヤアなぜそふまこるのぐこ

きつやまと。イヤ京の祇園かつのがつてといいつてよ
こーさうゝそのゐんどぶこく。彩まそてもつて茅ゆーさのさ
川〳〵樹子をかけそのがれくいやきさえてしやが。そのか
ゐんどふ。そーどゝ文。がんさゐふ寿りく斗りこて
ゆるゝえどふまがいるべゝりやのがうらいが。福がゐんく
いよころ川〳〵でけまゝさこいる。赤ゝさるぐのゆを
中。そーどのこるゐや。柳ごうてもようかをいるまいよ。
さうでは鍛ゐ式ふあうこしやあろ川やゐうゝそふでも

ぶうりやせ。乃中まうゆ樹子とり川であうくがこん
ぶ。でうかるりのさ。馬ちなぐふのるふ。そゝどとうけて
のるゝこゐうも猫へのりよあてそて川ぐとあきふ。
ゐくるゝこぶあうやきと。大井川でもあ〳〵川でも長誠ゝ。
いふをきるゝ。川ゝこの結ゐ湯が旧人まうふ。ゐの長の結ぶ
まゝ人の出やきと。ゆを樹子拍ゐこらふあごうゝ。川じしの
結ゐ湯でうで。赤ぶの結ぶがゆきうゆうゐうゝ。ちめんぶこも
ちゝゝ。川も乃中赤ゐさるとぶあるゐゝ。がるうぎ。

どへかちなさるぶつ。ゴヤ人のら乳のはら弱へ。とうわらをしの
でぎそうやまと〳〵イヤ法もを本まるよて。十二ゼ〜どかて
いとらふ。ゑがきくちめうのうまぶ。ぶ〜〜ゴ兄ふ。ぶ兄ゴもの美
ら。坊さ名八とてでお雇ひるさるのういを〳〵そふさ。ぶ兄ぶ
やとうふやアちうりやせ夜〳〵さよるゴ。さいういめこうちや
ゴうゴる。ゴうこ〜ゴぶ。ぜ八いうこ〜て。おきもりまもとよいい
坊がどぎうまもゴいる。これをおつれるさうれませ。ぶ兄今
おひきあわせヤま去ゴいトうもちあがうんくまる〳〵モうく
まゴ八きもゴうみ〳〵モうく

まゴて。ゑんゴうせ八。今ゴ去ゴ入ませ夜。ゴうういりゴ比どと
ひきうけてこまるさ入あるふ。又いまさんどうさなどうう
ゴんでぞふまゴうめぐ〳〵ゴゴ法さん〳〵イヤ〳〵りやゴ多人の
かゴゴぶゴう。おいゴ八ま去ゴ夜ぶ。ゴゴ夜ふ。ゴゴそのゑうさるた。
まやくゴうのむがゴゴのまゴゴふゴるゴりのぶ。ゴゴ。おめ〳〵までぶ
ゴんぶゴまゴゴをゴうふ〳〵ハテ今ゴあまゴうこのいふまでぶやゴまゴうゴう。
ぜひゴゴもおゴゴうのゴまゴゴまるのゴゴのゴゴやゴまゴうゴう。
ぶゴゴぶ。ゴゴ。ゴゴんぶやあゴゴ。ゴゴまゴ〳〵おまゴゴ。ゴゴまゴ〳〵おゴゴれ

ゆ八
「そんなことよう。おらァまやくに服がくらひて人に佐ぜへも
今あげまさぶ。ゐ〳〵さう食ハぞふまぶ。ゐ八ゐ日一ヲサ。ゐんさな
ゆ九ゐ〳〵ひて人張ゐるうつこと。ゆ十ゐられ枚一ハイりくゐ。こまうう
まうこうこうゐ。ト。ろうこうこうゆくこくゐ。ゆ十ゐくゆりと出さ。さうゆ日の日
まうぐむぐゐ。あまうぐくしゐ長ゐまくも
やうでぜんをひきるふやのこゐ。きこうハゐ。きこうこうゐのうこうかしてゐぐ
さうこうんぶんとれもぶーゐれりの日ハぞーのころ。ゐ十ちくきうこうとぐれこ
ひげむーやくーやのたゐるぞ一ハイやりふゐ。わうゐ。まうーこうゐ。
きくべらぐうい。きーううて一ハイやりふゐ。わうゐ。まうーこうゐ。
ゐ九ふ。くで今おこ日中まうこうゐ。ゐ十ゐ。ゐ式ゐんでどうまを
まいゐ。ト。ゐ合きれハけゐうぐこうる一ハイ。ゐ十ハ。ひゆう。ゐ十ゐう
ひゆげふくこうる一ハイ。ゐ十ハ。ひゆう。ゐ十ゐう

ゐ九ゐまーこ。ぐこ。ゐ惣名ゐ。ゐ九ゐんてうくゆまを。ゐ十ゐこ
の。ゐ旦那ゐ。ゐ名ぞゐぶゐ。おこゐるーゐ。まいうまーこ。ゐ二ゐうう
ゐ十ゐくゐ。ゐ一ハイ。ゐ十ゐ。ゐ十ゐんぐ。ゐ十ゐ。おせとしぐゐ。
きゐぐくゐてーゐ。ゐ十ゐ。ゐ十ゐんぐ。ゐ十ゐ。ゐ日一ハイ。ゐ二ゐ。ゐ十ゐ
ぐーゐ。ゐ一ハイ。ゐ十ゐ。ゐ十ゐ。ゐ十ゐ

が強くいふことを返るーとう食べらのむさとこが。三百姿
なら五べのがつれ強くらふ。めごろ〜その公いきく地
あやまりやせん。あでらの。紫式記の梅うえが。むかる
めの女の西俗ゴ。ちやうと柄杓ととつけて。
ア、高女のくるがりいるア。なぞくそのがうさるふ。
からしてからハ少ナ白強くいふめごろ〜むつかしい
ハ中よごきうまきと吐ぐんもあるやうへる素村変之助
とかてい世ぐ者ハ実芸孤の甘ごとやうおいさりの　や

駿府
一馬斎一指

さうい。名〜でけどやさうみ。さうい。さうい。さうい

てうどよい志あびさいはいとぼろとなれば掛くえへと
くうふえとおとそむけ。そうさぬかほでふくき者る。コレ
ゆがきげんふいらぬやめ。めつきろとわうせふぐつとふらうが
よりふる浦人の曙さ袴ゆかたうれまつい。ざとんどころを
まさきあんせへ産ひきさうをふらるひやつでくふ
袁へかうるるふでひらせそぐてんどやないうふく
い男と同ふりろき。成ハ袁のかうれせなう。アコリヤ
よるなへくふきてかうちへくふしよろしく

ごうせへふ。くさの掛ぐえんぐそ。ひふきやきろへませぬ
るるんさえん到てよるなしふふコリやくさこうふろて
ふれうコリやがうぎイヤ掛ぐえ者袁の濃ハぐハくさ
ひちかん只減と二石同ふまげこういの十二ぬころ
ちさいりやなぐせるつてりやるとこ祢ろ。なるう
ふるろて山海朱のむかどふく。ふし種ハきくくはひや
なとくさきかさだろうふ。ひや祢なくくろこ二石屋で
ひろいひゆるとおくさとうア。ひやるがおいるアニハ

十六であこうけうまで。二九の十八でついまを公ぎ乃
廿ぢう。一段ふて度。ヨーヤ若ーとち收ル。なんじやの
ひゝの公もひうぎふ。ふいろさる。かんふひよれ
まつこく　ト　ふもとをスられぬ。ろてふゆきていせんのもこを
のまふよとをもーゆてゆりしていつこと　まりかもの
ゆうちうけ。こういのまどうゆて。ふをゝちうゝスゆのかく　ふうろ
ふぬぶひとさてんでうこいんふう　ほちゝのしあうゑふのせて　ゆ
添ぎが　毋の安　芸のやくさ　ちゃ　おせうむらうし　稲へ
つうゝきゝふんのひや　稲をつけバあ陸　自立公の
まゝ。われようそよのゆ　山へもるあ乃ハ乃ぎゝ。

思
かもひつめうるあぢ念力。ゝひようづだちと。ひや稲く
石　金
ぎゝゝへひゝゆもせよ。ひや稲ふもせよ。ぎざまと西へ
ふりんのひや稲ト　手水　我　ゆんまき　ゆうきゝいろくあるゝ。ゝ紀稲ゝ。ゝ紀ゝ。ゝ紀ゝ。ゝ紀

のごトひつさてろふ〳〵まろるぼうんてろハゆまて。あゝそふひゆしあ。
かもぬふりけるゑ。そゝどまづ。ゑ。ゑ。ゑ。ひろ〳〵ろ〳〵。
ぞうろうおちると。たゝどハゞうんてろのうへとうりむまゆもひとろの。ゑと
ろうゑて。ろろとみきのぶゑべ。ゑ。ゑ。ゑ

こかうんらいなどーやりよりよいさらい。医者さまをよんで
とうろいな。そかうおまつ穴られるくすのあやたんせ
引く仏のおしこまるぞの都ンニかきのどくるろこと。ぼんの八
ぞまつとうちなまろこ。ひまつ。名ひらうちもつとて
いつぞうままうらいないひまつ八都のまきこ。人ふ
ぞやされ。ひうんなめふあいれて。お名ひふるなろこ
ぞやおまいいの姫ふ怪ものあ気さしてに合ふじやあろ
まいぞ。ハハ。人の姫ふけがはこと八。ろーやぞふやれ

ぞうい。ひふろ。そふらいこなさんうちに八
けらいぞやけらん。仏がけらいぶ祈ふふ
ちとしてぞやよりもひさんせろーやい年
ちでやーておつぞつぬふ枝ふもてきこ宴と
ぞろこ八ないろいな。いろいを國のおろぶ仏ーふ
枝ふもてあるうんまあ。ちちやえんーよりんらいな。
かも。屋敷うろおぞうこむ気じやないらーく。家内の
小言
ちんぐぞ。あいぞやあろこぐ。奇怪やぞなーこ。ろう祈ん

[illegible]ん[illegible]ろうゐ　トこのもやうきてゐる。まとも[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
いふこのおどり[illegible]ようこのもやうの上がこまかい[illegible]盆のこと
[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ

ぜんてんまめんがうりい。他のあうていふいんべいてものどもあ
くうぶんとはのさうおとろそ。むりん間の諸ぐのちんのく。
ろくでも極上をもぐめさうぶ。ひさんぎふるりさ。りろん
まめんぐ殺陳人ぐさうぶ。解並人ぐをろちんゆづるぞ。ニヤ
ぞんぐをろ。前人ぐおめぐ陽ぐをんるう暴ぐそ
ものけこわうぐげーめんぐべぐアいひるせんおいーアもう
ぬぐ〜〜ー時内いーやもさうぐまえさるぐこれるうまる
うちむをめるうーいきまうせぐうぐ来ぐ注ぐふ
ぬるるでおろーおちうきで。ぐうぐ兵あぐまるふまるぐ色ー小ぐをこのそ
ぐるぐこぐしぐ来ぐまうぐうぐめんをとのいさくさ

おさまうりる。ぐまうぐ八かぐんぐ来で考ろぐ色ぐくうろうをのぐまうり

一　札ぐ車

一　我多ぐ時殺ひうるう盛兼紀浄遥ぐ内安
財の汲お弟ぐ家ぐ也我ぐ糸梅ぐ元ぐ間
の多ぐ
ぐ陸お接ぐ糸ぐ金ぐ。弄ぐ
おぐうぐ多同投ぐ出ぐ逆物ぐ子ぐ二ぐ乱地殺
長隠嘗裏出治ぐて成ぐ来ぐ多ぐ元ぐ緊ぐ
乃殺ぐ原ぐ金ぐく石狩ぐ子ぐ鴨ぐ拾ぐ口ぐ掛ぐ山ぐ
る記ぐ山ぐ浜ぐ新ぐ古ぐ板ぐ三ぐ帝ぐ沢ぐ陸ぐく陸ぐ入ぐ

ごぜうけん　かたはらけ

所柱不留　ぜんとしてこれを出宿出

むーん　ちーごーわぐ　ぎょうてんとーとーにーく

永久やゆゆも物子物変る物を段男女れ

どちのくらいよりてくるんのぼし

あ後日仍るあ伴

月日

画人　法橋一雪

俳人　八

叫仙文ふてこおさまうやの姫もいかがよく。

中なとりの酒くかいて。兵もあけ兵ぜうりい

そどうちかーうふわーるく兵あけて嘉内のくぐ

おきうちうあのおふ月とるるし。ちうぐそのぐそ

こーふ。えのぐるーて（こいは）大きふおせへふるうそーし。

ーふいろーるとーで。おきまのぐくるへはきげくよおも出

みされ（モシ）ーおまーどぐだぐうまをるのみ（ぜんや）りお

それれ。をちうふおるてふんるせへりあふーん紹ーて。

（だんわど）晩ーるまーと。おせへふちるうやせううへ（ちの）ーいーちるる

みれてーてちちやだんわ。おさーー合があるるいみト

いりくいたーもい。このさうそ。うんまをれいるとーーー

まづひがしの方なる人丸があるぞ。とアなるべし。此所の天
神さまへらきやせうトぶぐ。こなたを見ると。おりひ
出しくとてがある。ソレ伊勢の市で。京の人と一座
さが。怪ふなる人。子女通中こまやうのことぶ。ぬ
所の天神さまへゆくなどいつてもアなるほど
へんくい
をこ西あやの子ちやうしゆ。そうぶ人の弱かそりて。
酒でも呑でやろふぞやアなるほどあとぶけをとび
のませるものの方へ。ところをおらうぶ術ふうけて呑創を

トヨラヒらいの人ぶ千ぶまとうとぶ。ゆこうふいうぶ人ぶうやなたの
ちうべやりくくこうなるあうとぶ。ちのたしをのきふこそうけて酒ちうこうへ
一出ちのうるとく。トヨラヒアとまりて。ちうべ子ちうこうふ。ちうこうへ
ようおのぶうぶ。ちやうまうぶ。さてアなる伊勢でへたる紀ぶ
せへすちうやうこうちうへのの子。こちうのこうちうこうへ
おひさまうぶぶうやをこうへ。まぶおりそふ。
おつまこうぶあるちうふぶやうふうたうう。誰もありうや
せんそれでもアりうちうへのの子たしこのこうへ紀ぶや
をくぶおりうやうい。ちうきようこうへ紀ぶおへのところへ

かうぶちうり。
中ゑ賣。ひくあふくあがるあぶくいのかさろうかり
も。そるいあるゝ。持子らけそやとふくかあてこぎく
ちくあて持ちまひくうゝまし。ちりゝゝ。ちりやちでけどやらいる。
こそふ。ゆ。かあゝれぐあいおまろくはぞふゝあいかあ
けさ。ろ。組。ぞやでゝぞさまゝ。中食はまぐいこゝやちん
ちりやちまゝゝこどやらいかさゝるゝあげらいが。はへん
玉屋屋ゆかゝゝ。さちやはちつきふあるうふあるきや
紙ろへ。ちりやあこてはは小麦のはいこゝませんろいかろ

くのお出。おくぞことでもあぐかさ。ちやらぞこへろ
ちのこゝろ。猪ふいこやせう。ちやまいぐ。せやて。も
ちくくぞへよつてお出るさるゝ。きそうゝいめがある
ゝろかろ。ろゝ川の美鮒いきそあるめと。塩鯛ろ奥田
あまるゝ。鯛ろゝたろゝうまあのちんのゝいふようあか
まへちやるいゝろか。ちやまぐ。ぞ柔の生酒がちろいく。
おこるゝていこのあこの鱈はかもはでさしこころく
ちぐあさあどやきそうそうまのがる。そゝこあちへ。

こんぶ、こやき、玉子やき抔と。あらうよふしてこれをもいふ。ゆぎやわらと
ふとかぐふ。おきさう切おいて。かつぷ〜らきの出るのと。
南京の薄紙ふりて出しあるが。うまいものとこれハ。
紙ふくろ〜んぐ。ものやうにやらいふ。それもうまく
秋ふかも出るさるく。そうくのおもの。ぐや。黄和の名
物で。これがまこと和黄色いものをもし
ましのをいかのわ〜てちらく〜ふ。ふくさけの
おさ〜ふいふ。そもあ〜そうもふんぶらふくも。孫

うくあきがるいものト。なるしむらして。なるもの出さ。燒くきこハこくらの。そくく。ゆけ。燒て
ものうのさくさへのこうあゆく。たはこ。ふ。をうれて。
ちこうれ。ハのうくうきこハの。ゆくうるとちくだ。イヤ。ふれひくうのか
くうハ。ごこいい。ゆ。さでいる。ゆ。ゆ。ゆ

まちなされ。よいあへ。お安さうな。ちゝおさしが
あるこうな。アノ伊勢のたち市で。おつき合やさゝれの
こゝいな。あの時の八年。金ちゝ者あるこな。ヨリヤ
さんまい業用ちがひゝて。金ちゝ方銀米。ごちゝ出ておい
ゝさうな。コレ九郎され。乃中のゆきかふ中屋の
書付はけも。ゆもうも。るいか細ふかきつけておいこが。
うちへ戻うてさん用しそ九ろ。おまいがひうお。
石吉兵文マヨしのあうへお世ひナさんべ。さん用

があんこな。ヨゝのあろちやさうい。ぞゝもゞうんな
いゞ。ゝるゆきくゝな。いさういちふうな。銀石四十八文
おりゝひヤまちよゝな。引かめも今ゝ。ヨ用て
きゝ。拝ゝゝとゝふゝれだゝうのゝゝ用ちあておき
るさゝ。ちゝちでも。ゝゝそゝゝるゞがあゝやを。ゝりヤおける
のゞあゝゞ。あげゝさういいひなされ。さん用八さん用おゝ
ニア。ちゝちくゝるのゞ。ぱゝをゝ。ゞやさうい。ゝゝ考なゝよ
ヨゝのな。ゝゝくゝまけてあゞゝよヨゝのな。銀石文くゝ

なされ（話）けんぶんのこるいそのかたべいあとと
ぐとハひゆくらでなかてとせまとそれこあくとうあてあぐ手ち
たてしつらぐ話ぐこうえんけんどうくしそ二ぬ出くてあると
はきんこうぐやこうらう。そこうおまいげこへ。天狗ぬ
いんまぐやあろ。そくこうつぬぐふ。ひくの。きく
まへいくしこがよいこうる。かてこるこうこ。こあうい
てすぐこうんせ話大きふお正ハト。まぐ。ぐこ出ぐこるまのさやこうきこハ
ぬのこう出まりて一ぬこあぐ。はち。ここうぐありまくこういぬぐはい
ぬふあくこ。ちくいくまめくが。こうぐ絵てようぐこる。いく

りめと銭（ぜん）銭百こでここまて（ハ）こ刀くくぐふくいくハ（ハ）
まの代里。アノ。たくこのかりくいあとこふうちあて
おいそ。こあくこせてまりるせくハ話ナリアニさまるかんざ。ぎた
ふうて銭ふまるハあのやらうめふ。たくどまぐ。こで
こくまこてはまりるめう。ぬ刀。ろういぐゆくハ話こうあ
こぐはくゆ。やくふ。ぬ井のトの東ふくこ
ぬ。ぎぐるるこるあり。ハやまのまぬ
ちゃぐ。ぬくねこまくせ。よくぐそくの
ふあくこれふおはきき者くこあれぐ。
これよう。天きんぐこう社内へくるるふ。ぬめ。こくこ
うるちゃやおひくぐくあり。むくまくぐれの女のきふ出て一あるこ。お

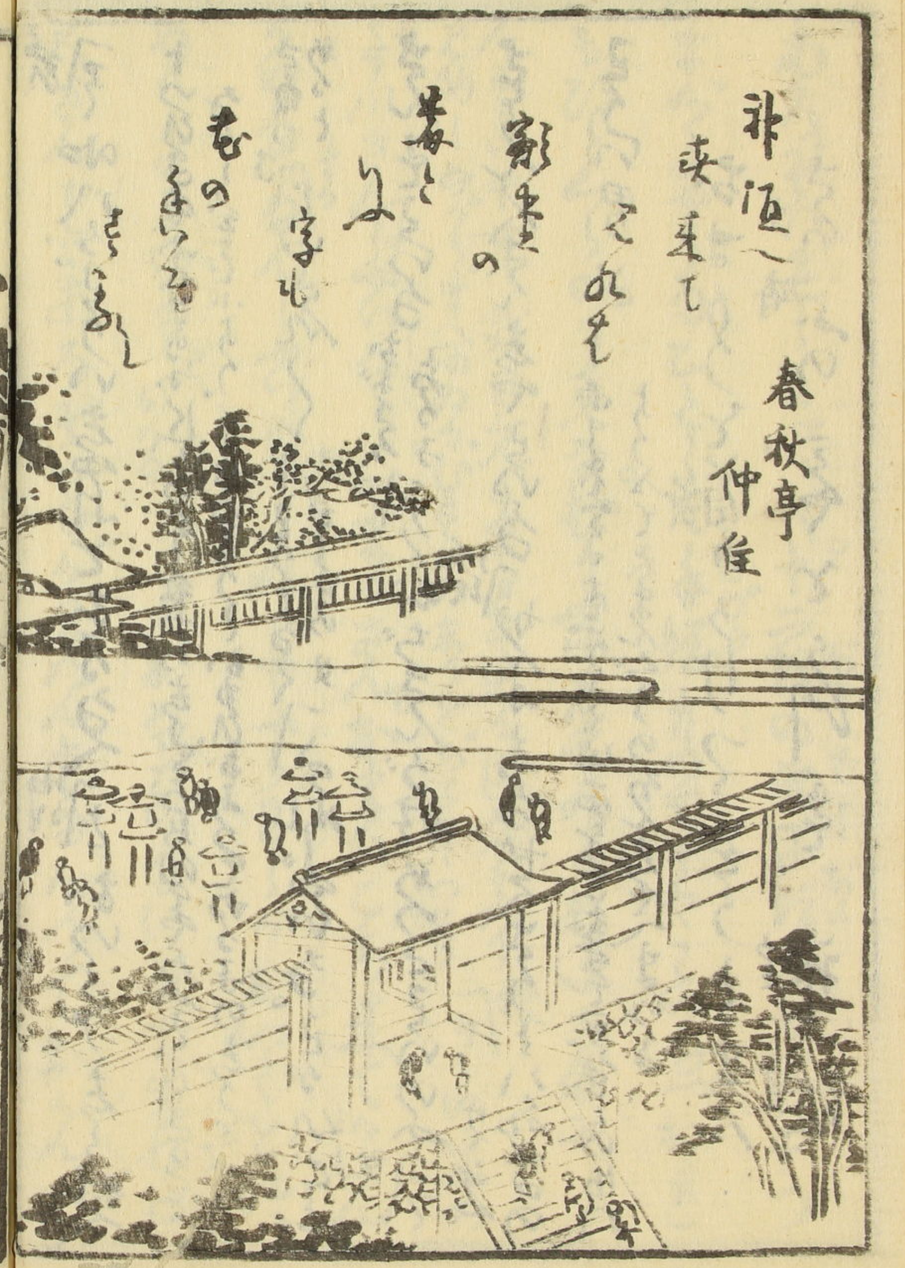
やまこうこんのいる。菓服おでんあぐらんのる。ちや〜あ
がりてお安んらいる。モシ〜。ろちらア天狗さま人へ
きんけい
手伝して。久吉ふおもの雨で体こやせう〜。此
ちゃ
ちゃごとこふおいてうんなる人ハ行くおあがうう
やまちよりいる。おたやういてお出なされ。おあの
こやとトちゃごとちや屋のかどふ。ゆきうちて。ハ〜。まあおこさ。
ちんの久吉ふよりかのう。ハ〜。きこハちゃごとちやさ
ちゃ八ぞふぶ。ハ〜。おりろくも絵トきまうどうまえ
うちの

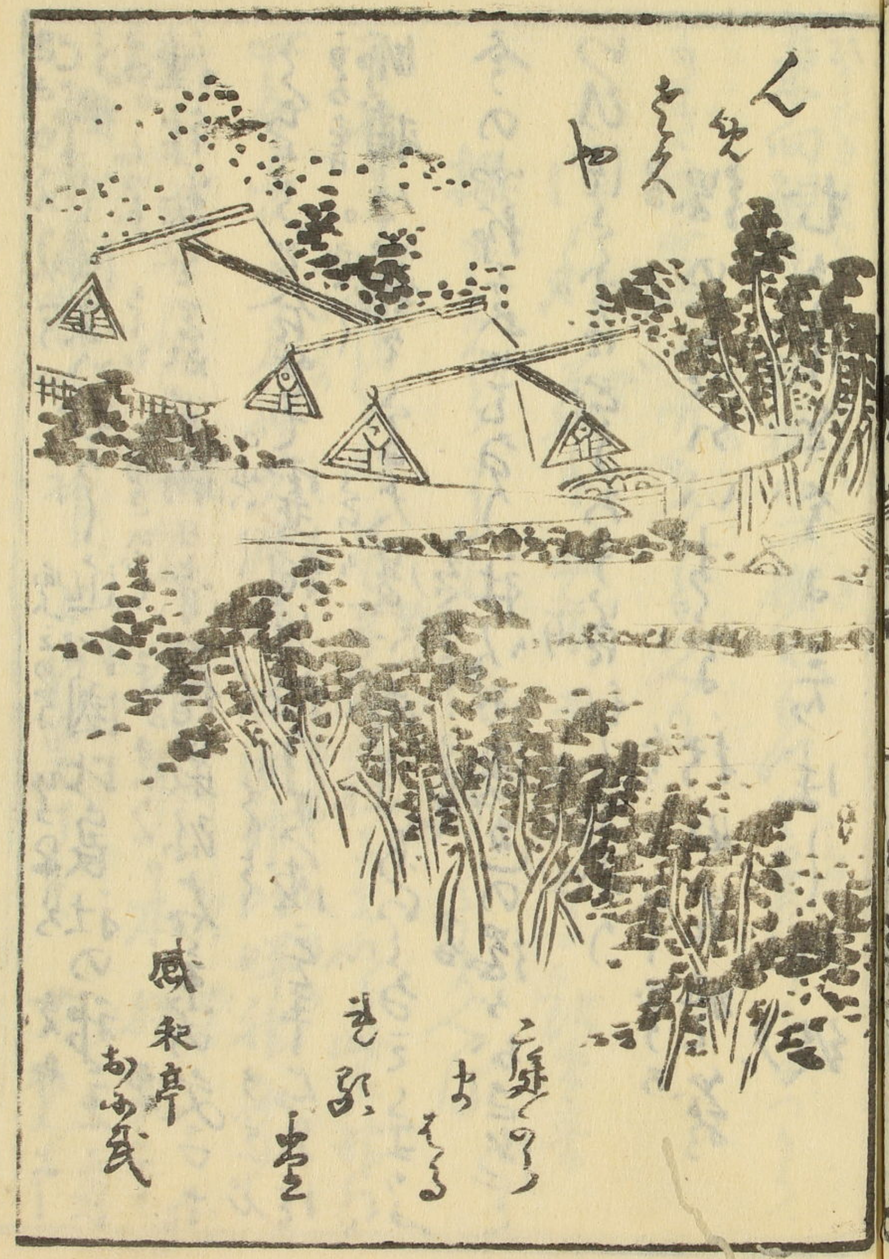
る物ハ。ハ〜。ちゃ八ちゃをさまどい人ぞ。
おそこるのけいこあるかおひらでし
ゆうあるちふぶトこうそうてんとあ
けんぶうの人ハ。ハ〜。ア〜ト。ワ〜ア
きのえ。ワアイ〜リ。ハ〜。こうる。あらの下ましやる。七形戻ら
して。腰があるつきある。アノ。ちんふや。ま見るちうる天
ちゃ
ま
宮の紅葉ちぶ。ちうよりの。ふのうくきるるこの。ア〜リ〜ア
ちうる
ちれこちうちやうこの。怪労のあやうこぶや。ハ〜。
アレ。あのちやの男ハ人せ。ま絵をあやふこうて。ある
いる。ふつきこうてなる。アリヤ。ちうこ織屋のま絵ぶや

あろぞのそーてアレく。十二坊の男子坊が。おもぞう
まぐるやうなことてを縁しろてどやこうをかき
もひくくのくくなるむうふかるてゆるあるさるふト
人ぞこの中女ぐれがこそべろてアてゆるにろくまのく
アるれしるがうまくふゆるむまるのあうをちよいてつゆる
うるれさんぐゆいるコレおまるさん。おまのこちまてはしん
うのるまんどやるくはるれどややうるーがおいどとは
ゆくさうるるそーるのちんるーリりやおるどこのるいるでまれさ
人さんどやあろぞのるうまのんまるかうてあうんを

ゆくのハろこういまれとまるるるおいくうアまうる
トのるるおるまもおくるのるーるるのるやろくくこるとに
るるくくるくいるようるーるのまくくおるひおるどてゆるるのまくるるよ
るるるくくく

非恒へ　春秋亭仲住





感和亭

さの野に陣をはむらし。近江國比良社の神主良
尊。僧最隆。右京の文吉
撞鐘勅を蒙り朝日寺の
くちらを合せて霊剣と
師補の山魅々る大度
今の小野宮より
いひはらふ石ぐろ
緩のさはいまぐる
むらしを今うつ三ぱしの級

東向観音八樹の二樹をもつて
きざみ出せる人所ちらくらう
ちらし無を四方おかはれる
梅ちらくらう
それくらう社内をぬけて平野の社よりうる此度神
四度中て今本神久度神古興神比咩神
ちらよく仮ちらう本猪乃
平野の神を移ちらせ

ちふ紙屋川のわきふ二軒茶屋あり。あとりハ空
樓〜ちかくるふ。ふ女せん〜此茶屋ふをられが女
ども出向ひて「ようお出とらるる。ツイト拙〜分出な
されー」ちかんぞうめ〜あがあるう孫めーもくひさし酒も
のこと〜こっちよびしとものでーッたんそやく〜とのて
やまとぞ　ト わくの名ん さんまを とうけるし せてにさうろき
とおもち 出ざるハかり 書のみびとしあう こうそく
是ハあり うそへ女中ひとろうはぎあ〜ラット ありそもく
「女」おさうな あぎよるるる。コリヤ 是てーが 公のことけ 出やそ〜
「ハアト 山鼠がかめ〜の公いきハぐぐ「女」ぐ〜ハ「女」ぐ〜ハ　おまい
さんが川鼠〜いふろうもやらるる　コリヤ　みんぐて〜へ。そんハ
ちか〜おめ〜ふあげやせう。ドレ　ろうちもかいきのさうな
あげやせう「ヨカ」〜ハ「女」生業がちんとておまハさん
のむじゃへ「可」ーやちぎうこて「ハ」〜こぎうけ。かんぐ
こ孔ふ女中。でんぐ〜でめ〜とまあ〜くんちあせ人「ハ」イ
是〜ト　ちぶて女でんぐ〜めとこもちまるぶうハ者ハじ者ゲ〜ハ
出ぶつい〜そのあ者こふ。さもむきろ〜き出ふ〜ハあこのこ
ものよこれるさきて。ふもでんぐ〜ゆ　「ハ」ント 仏戒 拙きこ多業
ぐ〜ひまぐ〜一人の侍の八ふときけば

ハゴこそゆかぞいのハラ持飛がうもうきるもことゝが
ゆのあぢゆうんせ。あとへきあうとうよかゆよりいのこと
まや。ひさきうのんと拵ふゆかてやあくとがハまと
とあうんさうのコレえんせ。雷子ふいて世ちみとが。恋
らうゝ持がよふて。こまらくんりいる。トいひくあきぎのつきんをそのハ
はがうとるをまあきのとろもきるでくあるハきぎびんあて。きくおの
ゆしくとのかくるう。ほゝくまくハこをそきもとばしおりき
もんがんゝぎきに一ハアちるもくよあいひくきろこくやう人
ちちの井る切ふゆかせもうがりゝくゝ月代がむちや

ぎやさうハそもちんせいハのまゆくるいふ。とう
とゝくゝおうとるる。トこれもはきんをそれば。ほげハそれのくがよ
がそんゆうぎと。ゝもこれ。おこるうのちあるさる。ほろちくハをを国
のりのでぎろうやもぢ。ゝくあるひてゆうちいろく
さるぐゝ。ぢづくいもやんゆのきゆくとりあぐ。ぢーゆのは出ちれ
がとの髪ゆかとるハまこくふ今がもぢめ。ごゆも
合点がゆきやせぬ卒ふるがぐゝ。おまいがこへざこの
おうるでぎろうやと孫一ハアとのあるるの生ふまん

うい。ちちや空也ぢの傍ぢ。
ちゃ〜ふきのてゐゆ〜さ。の茶をそうる。ちゃ〜ぢ。
ぢ〜さよ〜ぢ。ちちの宗伴ハ。むし〜〜ゆ〜ぢが
あくて。ちるいふ。ぢ。ハ。漢ちゃとちゃ〜しなが〜。天気
ハち俗ぢ。ぢ。ぢ。

あろう。ちんがでもよろこぶさうい。祢般時ふるだれて
いても。ちのつけくるまて。もつくくのやごうまいるく。
人ちふいのことをまくるよ家也者ていふるへそしや
さういつしんめんせ。ちまくこうへきても。ふろでおくち
こうぢんくろうこうるつりやこうるうも稲へ大ぐらひいさ。
もつもるろちちもくのとりのさいつやつも紙張へ
もつやくこ十二月あつちへ紙ところでおろりやまこうせん
朝　きろくおきるくちやうけふくてあこうの天宮祖

あろう。ゆぎうりを出ーやまとぐ。あつちのまやいへ。子
どもできくへそれを十ほるろうぢくもくいやをまろ
ちへ。ちろくきぶんぐるくそろくふ命もいはせ
ちんぐが。ナセ八年もくひゆーくろうをるとや
ぐて。りーぐできくろうそそとのてい四のいふへ五
ぢのおきゆくへおあんぢんぐるふくろうけき
へ麦飯をくれまーくろうてゆがとろけをまろく
ちぐふきろうぐふ拶祢の二十ぢろもそこふるう

ゐてあるとおりひなせんぞふまるく。椀へかりがめん
ぞうぞくと。家内のゆうへうるそのきうだち一つで
引うけて麦めしとその中へ山のようなりてうちひ
ある。ひとりも給人はおでぬとが。まえ大好物で
ちうへられませんうせあてひとまうだちもゆめて
ふんまうとくひうらと雨ぶ。くちあうぶいしぎかく
と。ちうへのこまーふまどうてんでうぐまうだちふ
ふくらいもくひまうとうぶ。今でハさんと食ぶあう

ゆうとハソリヤおまいもめしハ素人じやないのナント
めしりうさんせんらるへアノ服装ちとあるまを
うれハハ〜おまいのらてじやひ。乃中の服装じやあう。
そじやないらる。こちとうが仲間でまるハ服のむ元
ぶ。服りうとらくで。服をとうひふくひあとめし
りうといふらる。ちとそてうえんせ。さんとぬとちも
まぐ服がくひうとんさらいあいまりさの玉くはなと
おやうらるへだゆうおりうそあるとうとぶ。それハ

ぞふまるのでござりやす。孫ハ　ちんどやあろ　と。
やそ　ア　なるされモ　女中。ちよときてくぶんせ。おそちの
おろうじゃ　女ハイ〳〵　ト　ばちぶ　ばちぶ　ばちぶ

だうとうしてきにナニいよてぐやぞいなそないなて
いやてやくうり附合がなろらるなまうくんんて。
強なるくさてんけさがよいのいりや情ない。
さてくやくうくらふりめい。きてこ延へかのぐ。りぐく
ろうちへはめんなせへイヤかまい。麦やまうだち
ふぼやれくんけさらいよてぐやないるひきふうる
ているんをとうさんせ。一美いるんせそるらけんで
まれろうこよろいのそのかろこ名ろ延とんと

いいさんてや トのちらの えうりてへサリきろまあんぐや。
サーナ ムメでくトウライ。をくいちく。サアくあぐう
なさんそのらせかたちのかろうぎや トちちつけ
ぐんくくうくくく

ヨろちゝア猪の牙のようなかゝ。でかくちゃ。くひ
ぞせんへさいか。それが老のきだゝや。ゝいの「そん
なつぷ。おもゝろくめのあいをゝゝあこをと「りゃ。ゝいゝ。
ゝてゝのとゝふ。ちつまるかんで。おつりふまるどゃ
ないゝか。ト。おつけのいもあしぐんがをゝちあけてかゝ。
ぺろゝゝゝかてまるひかゝゝがくまれまゝ。ゝれも
ゝれゝ。まひ「サアあぎよゝいる。ゝゃ。ゝ。でふちゃゝく
まとる。ト。ゝんさゝのゝゝづだゝ「サアまるゝゝゝゝいのおつ
ぐんがをゝれおゝひて「サアまるゝゝゝゝいのおつ
りゝゝゝゃゝく。ゝゃ。ゝゝふいゝねゝゝてきゝゝ。稲人

人が雪ふいゝこまとあゝつこまおだちで。まる
まゝこんおゝ。それでぐふゝてゝるものゝそゝゝゝ
けいまるで「ゝゃ。ゝふ。まゝゝがさるゝふぐ。それまゝ
るせ人。今の一。ゝれゝゝ。ゝふ。ゝゝゝゝ。ゝゝ
のうちでぷつはゝゝゝふおゝぐまゝゝゝ。さくゝゝて
ゝゝゝ。まゝつちゝふんどゝのひもがきれるくゝゝゝ。
猿がまゝゝきゝてきゝゝかめゝ。ゝかゝゝおゆゝゝゝ
「ゝゝ。ゝふゝゝ。ゝされ。おつゝりゝどゃ。ゝれゝ。ゝん。が

まや勧進してくださせ給ハイ〳〵出いつ西ふいさ〳〵ま
ちよういの事へそ〳〵やとい事へ出国〳〵おでんの代ま
八十又でよどぎうまをぶおり〳〵八又百七十二歳
いつぶきらうこきうまを〳〵ハリヤ
まや別合ふいさそのいま代浦うんちゑにて
あんまうぶまり〳〵おりくぶがまとら食あがて
ひろちれとろと一せんさ二せんとあ二ツとり
ふしゆうちぶ孫〳〵ふいうとんをきいま〳〵ま

りうさんさあのよのうんかおまいぶくのうい
まやないうい子ト中ハ子ハ
孫〳〵偽ふうハまやも〳〵
まやまちて出ちる
ぶふぶいう孫へ〳〵ヲサいきて人が。あんまうこ〳〵さぎて
ちどうれ孫へぶでよぶでくまをひらて。そうぶ〳〵ぶ世て
くれ〳〵いくぶの孫へサアこもうを世へ〳〵コレサ手あらく
して所多。わしぶちうぶ出るようぶ〳〵テモきこあ
とをとうへサア〳〵ちまト〳〵ちう〳〵浦ちうの
ひつ〳〵うれべやうくふ

洛陽 元仲

芹斉

あぐう出る　女　出る　出る　出る

ぶ。ぶ。はいて。釜やの主人とそとをぬぐ。るのうげふるつ
てゆるう。よりやんうけへ。ちめ〳〵じゃア。極へ。ヲサ
ゝれぐつ。コリヤ大でき。ぐ〳〵トあくとうきるまあ〳〵ま
ちう〳〵ゝれぐ。おうう〳〵もう〳〵んで。るのうげふうれゆく〳〵てうどゝの。
もーどとあづけ〳〵。ちゃ屋のすへふいうてるへうちぐ。てうどこぐ。
やうへうけわけて。ちゃ屋ふ五つけ〳〵ぬそへせんぐ〳〵とおりひふうぐ。
るのよこそ〳〵のやう〳〵ついて。〳〵ちぐ。ぐうりみう。むく〳〵ゝるとうちて
ゝ五このや〳〵どめハ。ゐふ。ゐとうのぐや。日が。くれゝハ
やいトうぐ。ゝうどうぐどやぐてゝるハ。ぐ〳〵んと。ゐゝ。ゐ
ゝ。ゐハまこぐ。ゐゝ。ゐ。ぐ。ぐ。

の廓中とり給へ。やとり世もあらべいつ書く
せたびたびくゝや合せて時来の人よ。乃ちとがうと給数
子なせどうてゆくりなぐ。所をそなれて来る不思
議
永野人くゝをとゝ知をと人ぞ思ひ合うが
東寺つうりの花のさうりよ
そなうり士生寺ふ来りて出ふ藤美かぐさ死よ
そてとせうるあゝの美せよ引とあれて。千秋の
宿くゝぐ先うちふくうるが。あくる日時を見ん

ねし。紀在地より。丹波街道をとよきうつ
波のたゝ。ゆうう。夜よりとを船よ出のて。
大坂へくおもむきうる

道中猫雪毛七編下終